

13	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	16106003	ハイブリッド量子分子動力学法に基づくトライボケミカル反応シミュレータの開発	宮本 明 (東北大学・未来科学技術共同研究センター・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>研究は概ね順調に行われており、機械摩擦の化学反応への影響の解明、共同研究の実施など高い成果が得られているが、潤滑皮膜との関連性やシミュレーションの仮定と実際面との差異など一部問題点もある。本研究が目指すトライボロジーのダイナミクス解明は重要で興味深い。シミュレーションの結果が実験的に検証されて初めて研究目標が達成されるので、なお一層の努力が望まれる。また、本課題に関連した速報論文や学術論文が少なく、さらなる成果とさらなる高レベルの論文の発表が強く望まれる。</p>				
14	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	16106004	超伝導限流変圧器の電力システム導入効果に関する実証的研究	大久保 仁 (名古屋大学・エコトピア科学研究所・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>本研究は限流器と変圧器を兼用した方式となっているため、コンパクトで事故時の大電流を抑制できる機能があり、電力システムの事故時に有効である。超伝導がクエンチして限流後に超伝導状態に自己復帰する特性について体系的に分析した点等は、今後の超伝導応用に向けて価値のある成果だと判断できる。最近の材料製作技術の進歩のため使用する超伝導材料を変更したが、大きな遅れを生じることなく順調に計画を進めている。電気絶縁の沿面特性については超伝導応用の共通の課題であるから、現象と理論の面からの解明を期待する。関係者と連携しつつフィールド試験を視野におき、電力システムとの協調のあり方を検討する姿勢は評価できる。</p>				